

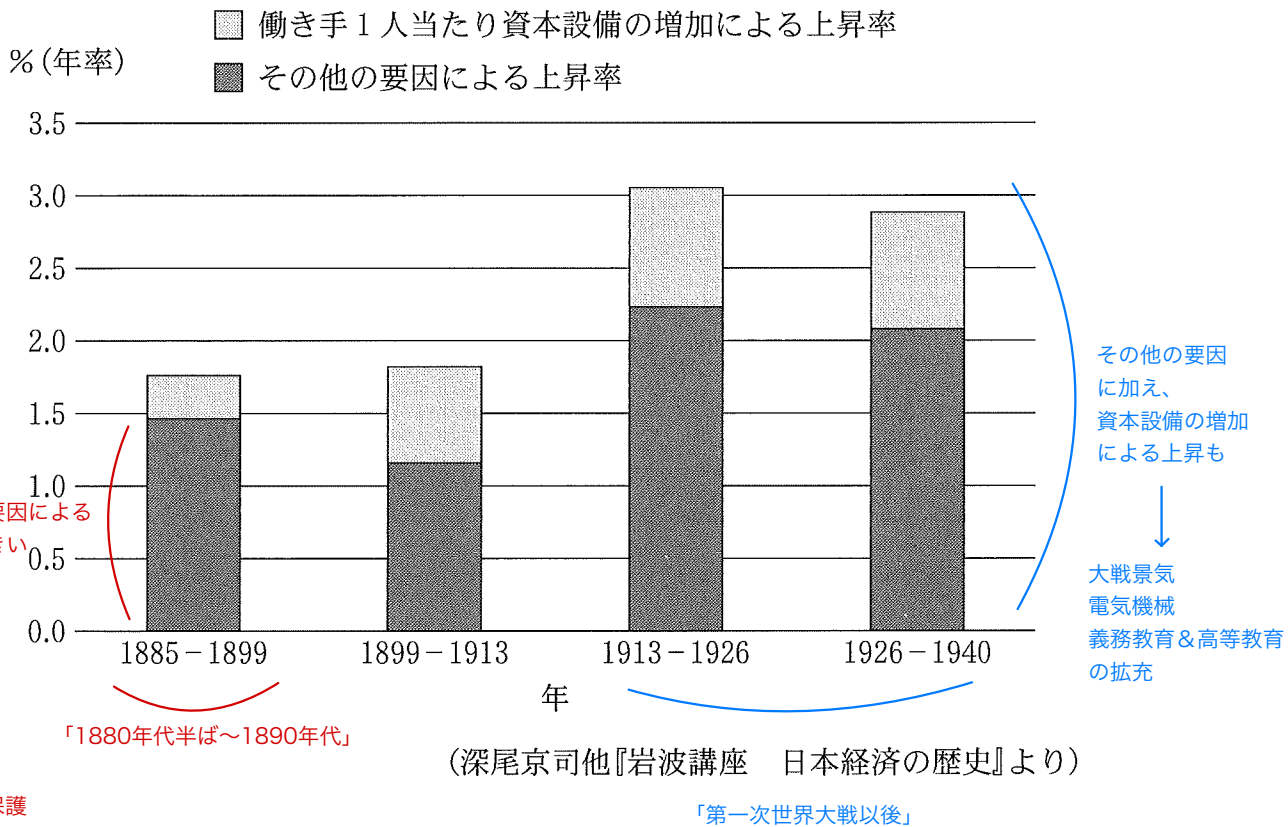
第 4 問 設問A→赤色  
 設問B→水色  
 共通の事柄→黄緑

今回はリード文がかなり長いですが、大事な情報が得られるため、しっかりと読むようにしましょう！

労働生産性は、働き手 1 人が一定の時間に生み出す付加価値額(生産額から原材料費や燃料費を差し引いた額)によって計られる。その上昇は、①機械など、働き手 1 人当たり資本設備の増加による部分と、その他の要因による部分とに分けられる。②後者の要因には、教育による労働の質の向上、技術の進歩、財産権を保護する法などの制度が含まれる。労働生産性に関わる以下の図と史料を読み、下記の設問 A・B に答えよ。解答は、解答用紙(二)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入せよ。

労働生産性の上がる要因 2 つ

図 労働生産性上昇率の推移 1885～1940 年(年率)



第4問は一般に、他の大問と比べて事前知識の暗記が必要とされる場合がとて多いので、日頃から暗記を欠かさず行うようにしましょう！

教育による労働の質の向上

## 史料

専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。譬えば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言、帳合の仕方、算盤の稽古、天秤の取扱い等を心得、なおまた進んで学ぶべき簡条は甚だ多し。(中略) 一科一学も実事を押え、その事に就きその物に従い、近く物事の道理を求めて今日の用を達すべきなり。上記は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく皆悉くたしなむべき心得なれば、この心得ありて後に土農工商各々その分を尽し銘々の家業を営み、身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり。

(福沢諭吉『学問のすゝめ』初編, 1872年, 表現を一部改変)

→ 学制による国民皆学

国民たる者は一人にて二人前の役目を勤むるが如し。即ちその一の役目は、自分の名代として政府を立て一國中の悪人を取押えて善人を保護することなり。その二の役目は、固く政府の約束を守りその法に従って保護を受くることなり。

(福沢諭吉『学問のすゝめ』六編, 1874年, 表現を一部改変)

→ リード文の「財産権を保護する制度」にあたる

## 設問

A 1880年代半ばから1890年代における労働生産性の上昇をもたらした要因は何か。具体的に 3行以内で述べよ。  
条件

B 第一次世界大戦期以後において、労働生産性の上昇はさらに加速しているが、その要因は何か。具体的に 3行以内で述べよ。  
主題                      条件

どちらの問いにおいても「具体的に」という条件がついていることに注目しよう！